

平成14年4月23日

各位

平成14年9月期第1四半期の業績等の概況

大阪府中央区瓦町三丁目5番7号
株式会社アドバンスクリエイト
代表取締役社長 濱田 佳治
(コード番号 8798)

(連絡先) 取締役管理部長

森 立夫

電話 06-6204-1193

1 業 績

(1) 平成14年9月期第1四半期(平成13年10月1日～平成13年12月31日)の業績

	平成14年9月期第1四半期 (当四半期)	対前年同 期増減率	平成13年9月期第1四半期 (前年同四半期)	参 考 前期(通期)
営 業 収 益	百万円 165	% —	百万円 —	百万円 535
営 業 利 益	△90	—	—	35
経 常 利 益	△91	—	—	33

(注) 1. 前年同四半期については、四半期決算を行っておりませんので記載を省略しております。
なお、記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

2. 当四半期に係る数値について、公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

(2) 部門別の営業収益内訳

	平成14年9月期第1四半期 (当四半期)		対前年同 期増減率	平成13年9月期第1四半期 (前年同四半期)		参 考 前期(通期)	
	金 額	構成比		金 額	構成比	金額	構成比
疾病保険	百万円 154	% 93.1	% —	百万円 —	% —	百万円 502	% 93.9
傷害保険	5	3.2	—	—	—	14	2.6
自動車保険	4	2.7	—	—	—	13	2.6
その他(死亡、 年金、介護等 保険)	1	1.0	—	—	—	4	0.9
合 計	165	100.0	—	—	—	535	100.0

(注) 1. 前年同四半期については、四半期決算を行っておりませんので記載を省略しております。
なお、記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

2. 当四半期に係る数値について、公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

(3) 主な資産・負債の変動について

項 目	平成14年9月期第1四半期	増減額	前期末
(資 産)	百万円	百万円	百万円
現金預金	83	△1	84
売掛金	60	2	58
有価証券	45	0	45
前払費用	8	5	2
繰延税金資産	56	20	35
繰延税金資産（長期）	127	17	109
(負 債)			
短期借入金	60	60	—
未払金	111	53	58
未払消費税	—	△8	8
賞与引当金	1	△4	6

(注) 1. 項目ごとの変動額が総資産額の1%を超えるものを記載しております。なお、記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

2. 当四半期に係る数値について、公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

2 業績の概況

(当四半期の業績)

当社は、保険会社の代理店として、いわゆる「第三分野」(※1)に属する保険商品(ガン保険・医療保険等の疾病保険、傷害保険、介護保険等)を中心として、一般の消費者に直接募集することを業務としております。中でも「ポスティング」(※2)という「プロモーション活動」(※3)を中心に、見込顧客の開拓を行っており、これが当社の大きな特徴となっております。当社は、このようなプロモーション活動を本格的に展開し始めてから既に4期目を迎えておりますが、ポスティング、全国紙や地方紙への折込広告および新聞広告等のプロモーション活動、とりわけポスティングの実施状況が新規保険契約数、ひいては当社の経営成績に影響を与えます。

(※1)「第三分野」とは、生命保険の固有分野(第一分野)と損害保険の固有分野(第二分野)のいずれにも属しないとされてきた傷害・疾病・介護に関する分野を指します。

(※2)チラシ(ハガキ大サイズからB4サイズ程度の保険資料請求ハガキ付の保険商品案内広告チラシ)の戸別配布による広告宣伝手法について、当社では「ポスティング」という用語を使用しております。

(※3)保険募集の前段階における、ポスティング、折込広告、新聞広告等の見込顧客開拓のための広告宣伝活動について、当社では「プロモーション」又は「プロモーション活動」という用語を使用しております。

当社の収益構造は、費用が先行するという特徴を有しております。当社の収益である保険募集に係る代理店手数料は、当社が募集した保険契約が成立した後に、原則として保険会社が保険契約者から保険料を収受する都度当社に支払われます。特に当社が取り扱っている保険商品は、一部を除き代理店手数料の支払期間が長期(5～10年)に亘るという特徴を有しております。

一方で当社は、ポスティングを中心としたプロモーション活動により見込顧客の開拓を行っており、かかるプロモーション活動および保険募集に係る費用はプロモーション活動を実施したときに発生します。

従って、当社の収益構造は、プロモーション活動および保険募集に係る費用が先行して投下され、それから得られる収益は代理店手数料として当該費用が支出されてから3～4ヶ月後の新規契約により回収が始まり、その後長期間（5～10年）に亘って回収されるという構造をもっています。

当期においては、市場シェアの拡大を最優先の経営目標としており、当四半期は138百万円（当社負担額）という高水準の広告宣伝費の先行投資を行いました。また、当四半期の営業収益も165百万円となり、大幅な伸長を見ておりますが、営業損益、経常損益共に損失を計上しております。

（部門別の営業収益）

当四半期は、前期（通期）と比べ、部門別営業収益の構成比に大きな変化はありませんが、疾病保険が相変わらず大きな比率を占めており、傷害保険がやや増加傾向にあります。

（販売費及び一般管理費）

当四半期の販売費及び一般管理費は、256百万円となっており、その内訳は広告宣伝費が138百万円、その他の販売費及び一般管理費が117百万円であります。これらの増加要因は、広告宣伝費については市場シェア拡大を目指した先行投資による増加であり、その他の販売費及び一般管理費については、将来の事業拡大に備えて社内管理体制を強化するため、人材投資を行なった人件費の増加が主要な要因であります。

（営業損益、経常損益）

当四半期においては、営業損失90百万円、経常損失91百万円と、営業損益、経常損益共に損失を計上しております。しかし、（当四半期の業績）で説明しましたように、当社独特の収益構造に加え、当社の季節変動の要因および前期以前に獲得した継続契約から得られる手数料収入が着実に増加しつつあること等により、この営業損失、経常損失は当期中に改善されるものと考えております。

（資産、負債、資本）

当四半期は損失を計上しておりますので、税効果会計を適用した結果、繰延税金資産が流動資産計上分および投資その他の資産計上分の合計で38百万円増加しております。

短期借入金につきましては、12月に60百万円を短期の運転資金として調達いたしました。

未払金は、前期末に比べ53百万円増加しておりますが、これは主として広告宣伝費の増加に伴うものであります。

3 当期の見通し

業績の概況で説明致しましたとおり、当四半期は当社の収益構造等により、営業損失および経常損失を計上しておりますが、通期においては営業損益および経常損益共に改善され、黒字化できるものと認識しております。

当期の見通しは、営業収益1,070百万円（前期比99.8%増）、営業利益85百万円（前期比141.4%増）、経常利益85百万円（前期比150.1%増）を見込んでおります。

4 その他

新株引受権の付与

平成13年12月21日開催の定時株主総会において、商法280条ノ19の規定に基づき、新株引受権の付与（ストックオプション）に関する決議を行なっております。その概要は以下の通りであります。

- ・株式の種類 普通株式
- ・新株発行の予定株式数 94株
- ・発行価額 1株につき1,600,000円
- ・発行価額の総額 150,400,000円
- ・対象者 平成13年12月21日開催の当社定時株主総会終結時において在任または在職する当社取締役6名および当社使用人6名
- ・権利行使期間 平成16年1月1日から平成23年12月21日まで

(注) 平成14年2月26日開催の取締役会により、平成14年3月16日付をもって普通株式1株を20株に株式分割いたしました。これにより株式数は1,880株に、発行価額は80,000円にそれぞれ調整されております。

株式分割

平成14年2月26日開催の取締役会の決議に基づき、次のように株式分割による新株式を発行しております。

1. 平成14年3月16日付をもって普通株式1株を20株に分割いたしました。

- (1) 分割により増加する株式数

普通株式 35,834株

- (2) 分割方法

平成14年3月15日最終の株主名簿に記載された株主の所有株式数を1株につき20株の割合をもって分割する。

2. 配当起算日 平成13年10月1日

以 上